

図書・ビデオのご利用案内

- 利用日 毎週月～金曜日 (ただし祝日・年末年始はお休みです。)
- 利用時間 9:00～17:00

現在,支援室には約600冊の本と約130本のビデオ,DVDがあり,貸出も行っております。皆様のご利用をお待ちしています。

こんな本やDVDがあります!!



Information

あなたのチャレンジ応援します!

「チャレンジ相談」開催中

支援室ではコーディネーター・相談員が,情報提供やアドバイス,各支援機関への橋渡しなど,チャレンジのお手伝いをしています。

「自分の能力を活かした仕事がしたい」「起業したい」「地域活動をしたい」など,下記までお気軽にご相談ください

発行・お問合せ先

茨城県知事公室女性青少年課
女性プラザ男女共同参画支援室

〒310-0011 水戸市三の丸1-7-41

電話:029(233)3982

FAX:029(233)1330

URL: http://www.challenge.pref.ibaraki.jp/



「おしゃべりサロン」

・毎月第1金曜日

10:00～12:00

<21年度の開催日>

6月5日, 7月3日, 8月7日,
9月4日, 10月2日, 11月6日,
12月4日, 2月5日, 3月5日

最近,家族や友人とゆっくり会話をしていますか?

おしゃべりサロンは,家族,子育て,人づきあい,仕事などについて,日頃感じていることや悩み事などを参加者同士と一緒に話し合う交流・情報交換の場です。



・水戸駅から日立方面に向かって徒歩約10分
・車でお越しの方は三の丸庁舎(旧県庁舎)の駐車場をご利用ください

女性プラザ
男女共同参画支援室だより

平成20年10月から平成21年2月までに開催したシンポジウム,セミナーについてご紹介します。

男女共同参画チャレンジ支援シンポジウム2008 (会場:古河市「とねミドリ館」)

平成20年10月5日(日),男女共同参画都市宣言を行った古河市で,「未来を拓く生き方,働き方を考える～ワーク・ライフ・バランス～」をテーマに「男女共同参画チャレンジ支援シンポジウム2008」を開催しました。

はじめに,独立行政法人労働政策研究・研修機構統括研究員奥津真理さんによる基調講演があり,その後,奥津さんをコーディネーターに,総和地恵の和会会長の稲葉稔子さん,京三電機株式会社人事室長の市毛誠さん,古河商工会議所青年部会長の永塚守さん,授乳服のモーハウス代表の光畑由佳さんによるパネルディスカッションが行われ,多様な勤務形態の導入,子連れ出勤の取り組みなどが紹介され,今後の生き方としてワーク・ライフ・バランスの実現に向けて意見が交わされました。

また,ホールでは「チャレンジする女性たち」の展示販売も行われ,約600人の参加者の皆さんから好評を博しました。



男女共同参画チャレンジ支援セミナー <第4回> 「女性のための創業支援セミナー」

第1回 平成20年11月29日(土)・12月6日(土) (会場:女性プラザ男女共同参画支援室)

第2回 平成21年1月31日(土)・2月7日(土) (会場:筑波研修センター)

創業を考えている方や創業についての知識を学びたい方を対象に,雇用・能力開発機構茨城センター及びいばらき就職支援センターとの共催で実施しました。



第1回は『入門編』として,最近の創業の動向,創業の成功のポイントなどの講義や創業体験談のほか,創業チャレンジ相談会を同時開催し,セミナー参加者が抱える個別の課題等について講師から助言をいただきました。

第2回は『実践編』として,事業計画作成や資金調達のポイント,会計・税務の知識,創業と法律,社会保険など実践的手続きや知識を学びました。

参加者の皆さんからは,「店を出すために何から始めてよいかわからなかったが,ヒントを得ることができた」「段階をどのように踏んでいけば開業までたどり着けるか道筋がわかった」「人の手を借りずに一人で頑張っていこうと思っていたが,ネットワークの大切さがわかった」などの声が聞かれました。

本セミナーは平成18年度から実施しておりますが,毎回応募数を上回る多数の申し込みがあり,今後の実施にあたっては,引き続き,具体的な実践事例や実践の手続きなどのニーズに対応した内容を提供してまいります。

なお,20年度に実施したセミナー参加者(142名)の年代と職業等については図1,2のとおりです。

図1 参加者の年代

20代	30代	40代	50代	60代	不明
3.5%	34.5%	19.7%	21.8%	12.0%	8.5%

図2 参加者の職業等

自営業	会社員	主婦	パート・他	不明
8.5%	23.2%	24.6%	33.1%	10.6%

■男女共同参画チャレンジ支援セミナー <第5回> 「仲間をみつけて、地域でいきいき」

平成21年2月26日(木)開催の上記セミナーには、応募数を上回る多数の申し込みがありました。

常磐短期大学副学長で、NPO法人ひたちNPOセンターwith youの代表理事としてご活躍中の安田尚道さんを講師に招き、実際に地域社会の中で、様々な人々を巻き込んで素晴らしい活動をされている方々を交えてミニシンポジウムを開催しました。

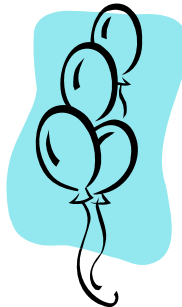
事例発表では、「NPO法人くらし協同館なかよし」理事長の塚越教子さん、「たまり場・たろう」主宰の小松崎登美子さん、「大塚青壮年同志会」副会長の奥村明さんから、地域活動の趣旨や目的、それぞれの地域での活動状況等について、具体的でわかりやすい説明がありました。

パネルトークでは、安田先生の進行で、事前に出されていた質問や会場からの質問に、事例発表者と参加者が共に考え、気づきを共有しました。私達の毎日の暮らしは、地域社会と必然的につながっており、誰もが身近な地域社会でいきいきと暮らし生きたいと願う気持ちがひとつになって、会場内は大いに盛り上がりました。

最後に、安田先生から「地縁・血縁・社縁を利用しながら仲間を見つけ、無理はしないで好きなことをやる。やり続けていくと、自分にも人にも役に立つ充実感にはまる。その中で成長する自分に気づき、

世のため、人のためになることに喜びを見出す。それらの経験を通して仲間とささえあいの関係になる。」と締めくくりの話がありました。

参加者の皆さんからは「事例発表者が、それぞれ地域に根ざして活動していることを知り、自分の地域でも何かできないかと考えさせられた。」「地域の中で、無理せず自分に合うボランティアをやりたい。」などの感想が寄せられました。



事例発表団体プロフィール

NPO法人くらし協同館なかよし

ひたちなか市本郷台団地の生協店舗跡を地域の拠点として再生し、平成17年11月から活動開始。住民ボランティアが中心となって、地元産野菜や手作り惣菜の販売、高齢者や障害者のための健康体操、子育て支援、生活サポート、趣味の講座、季節の行事など地域住民を取り込んだ様々な活動を展開している。

所在地 ひたちなか市馬渡2525-498(電話:029-273-8388)

たまり場・たろう

地域住民の世代を超えた気軽な出会い・ふれあいの場として下館地区中心地に、平成16年5月に開設。人と人がつながるまちづくりを目指して、ここにあつまるとの何気ない会話から生まれる様々なアイデアをもとに、研修会やイベントなどを開催している。

平成20年4月に「茨城のたまり場ネット」を設立して、他の活動家や団体と連携し、県内における「たまり場」活動の促進を図っている。

所在地 筑西市甲67(電話:090-1797-3045)

大塚青壮年同志会

水戸市大塚町にある鹿島神社の伝統行事、お神輿やお祭りなどの文化を継承していくことを発端として男性が中心となって昭和57年に結成。ソフトボールや親睦旅行などを通して仲間づくりに努める一方で、地域内の湿地帯の一角で絶滅危惧種であるサギ草の自生に成功し、毎年8月に開催する鑑賞会には他県からも多数の見学者が訪れ、水戸市の新たな名所を確立した。近年は、NPO法人水戸西部緑化クラブを設立して、小学校校庭の植栽整備や小学生との稲作体験など環境保護に力をいれた活動を展開している。

住 所 水戸市大塚1310-1(電話:029-251-8286)

わたしのチャレンジ!

これまで当支援室で開催したセミナーの参加者やチャレンジ相談を受けられた方の中から、夢の実現に向かってがんばっている方二人に、チャレンジしようと思ったきっかけやこれからの夢について伺いました。

おれんぢカフェ

地域での情報交換、交流の場をめざしてチャレンジ!

横田 照実さん

行方市

起 業

国道354号線を鉾田市方面に車を走らせていくと、農村地帯の一角に「おれんぢカフェ」の看板がさりげなく掲げられているのを見つけました。オープンタイムはAM8:30~AM11:30&PM1:00~PM3:00。メニューはコーヒー、紅茶、オレンジジュースなど各種ドリンクにお菓子付き。家事や育児に忙しい若いお母さん世代が集まりやすい時間帯に、お菓子をつまんでお茶を飲みながら情報交換や会話を楽しむ交流の場として使っていただきたいというオーナーの横田照実さんの思いが込められています。

人と人、街と人をつなぐ場所を目指し、昨年7月、横田さんは自宅の庭先にコミュニティスペースをオープンしました。ここを訪れた人が、おれんち(我が家)のようにくつろげて元気になって欲しいという願いから、「おれんち」と「オレンジ」を掛け合わせて名づけたそうです。

横田さんの出身地である静岡県河津町はみかんの産地、みかん畑が辺り一面に広がった景色は横田さんにとって原風景なのでしょう。オレンジ色は故郷の色、元気が出る源となっているようです。

取材に伺った日は、若いお母さんたちが5名程、中にはお子さんを連れて集まっていました。地元で生まれてずっと暮らしている方、よそから嫁いできた方などバックグラウンドは様々でしたが、「住んでいる地域の魅力を多くの人に伝えたい。知って欲しい。自分たちの子供が大きくなったときに『住み続けたい』と思うような街づくりにかかわっていききたい。」という皆さんの口から出る言葉から、郷土に対する熱い思いが伝わってきました。

横田さんと仲間目標を伺ったところ、「人やものなど地元の宝物を見つけ出して多くの人に伝えていくための情報誌作成。次はグリーン・ツーリズムかな。」ということでした。皆さんそれぞれアイデアが豊富で、次々と夢は膨らんでいく様子でした。「おれんぢカフェ」が行方市を照らし続ける新たな一灯として、ますます光り輝くことを期待しています。



親子たいそう

幼稚園の先生の経験を活かし、地域活動にチャレンジ!

青木 千鶴子さん

水戸市

地域活動



毎週金曜日の午前中、水戸市赤塚のミオスで、0~3歳児とお母さんの「親子たいそう教室」が青木さんの指導のもと開催されます。青木さんは親子たいそう教室の講師として、各年齢に合った「たいそう」を考案、指導し、お母さんからは、「意識してわが子とのスキンシップが図れる。」「毎回、親子で来るのが楽しみ。同じ年齢の子を持つお母さんどうし、情報交換もできてうれしい。」と喜ばれています。

親子たいそうは、NPO法人水戸こども劇場の子育て支援活動の一つとして始まりました。きっかけは幼稚園入園前の子どもやお母さんの居場所がないことに気づき、また、3歳以下の子を持つお母さんから「親子たいそう教室をやってほしい。」との声が聞こえてきたからだそうです。「この活動は3年目を迎え、参加者も増え、嬉しい悲鳴をあげているが、悩みは後継者問題。」と青木さん。「後進の指導の必要性を感じているところなので、興味のある方、一緒にどうぞ。もちろん、親子たいそうに参加希望の方も大歓迎。」とのことでした。

青木さんの次の目標は、耳の不自由な方を支援する手話通訳者になることだそうです。体力の続く限り、子育て支援に携わりながら、チャレンジし続けるという青木さんの笑顔がステキでした。